

70年の、その先へ

所沢市制施行 70 周年記念誌



所沢市は、市制施行 周年を迎えました



ごあいさつ

所沢市長 藤本 正人

昭和25年11月3日に市制を施行してから70年目を迎えることができました。当時4万2千人だった人口も、今や34万4千超となり、さらに成熟していく予感です。これもひとえに、その時その場所での我がまち、我がひとを思っの市民の活動、ご尽力の賜物であり、すべての市民の皆様から敬意と感謝を申し上げます。

ところで、これまでの幸せのものさしは「成長、発展、便利、快適」にあったのではないのでしょうか。でも、地球も社会も軋みが生じ、既にこれまでとは違ったものになりつつあると私は感じます。大震災からコロナまで、この10年間の自然からの問いかけに、そして、人口減と少子超高齢社会に、私たちはどう応えるのか。行動が問われるのがこれからです。

これまでの歩みを大切にしながら、所沢市は、新たな歩みを目指していきます。

首都圏に位置し生活利便、かつ、武蔵野の雑木林や狭山湖など自然豊かなまち、の特長はそのままに、もっと自然を活かして（自然との調和、共生）、自ら関わり助けあって、おおらかに（絆・参加・包摂）、風土と市民の持つ文化を大切に（文化）、人が生れもつ力（人間力）の発揮を頼んだ社会、「善きふるさと」を、市民の皆様とともに創り、継承したいと思っています。

皆様、未来の子どもたちのために、これからの所沢をともに築いてまいりましょう！

目次

市長あいさつ

観光大使メッセージ・・・・・・・・・・ 1

安彦良和氏寄稿・・・・・・・・・・ 2

所沢ってどんなところ？・・・・・・・・ 4

市になる前の所沢・・・・・・・・・・ 5

写真で振り返る所沢市のあゆみ・・・・ 6

これからの所沢・・・・・・・・・・ 14

高橋玄洋氏インタビュー・・・・・・・・ 16

藤村龍至氏インタビュー・・・・・・・・ 17

魅力あるまち①みどりを訪ねて・・・・ 18

魅力あるまち②文化の史跡を訪ねて・・・ 20

魅力あるまち③ところざわ自慢・・・・ 22

魅力あるまち④スポーツ・・・・・・・・ 24

魅力あるまち⑤ところざわイラストマップ 26

所沢市議会・・・・・・・・・・ 28

所沢の礎・・・・・・・・・・ 29

表紙絵：安彦良和氏作画／2ページに特集

みんなに愛され10周年 トコロんから、

ありがとー!!

「トコロん」は、2010(平成22)年の市制施行60周年を記念して誕生した所沢市のイメージマスコットです。デザインは市内在住のイラストレーター竹浪かおるさんによるもので、市の鳥「ひばり」をモチーフに、航空発祥の地にちなんで頭にはプロペラ、狭山茶の緑をイメージしたスカーフを巻いています。「トコロん」の愛称は多くの皆さんからの公募で決まりました。

みなさんの応援のおかげで、トコロんは愛媛県松山市や静岡県浜松市で開かれた「ゆるキャラ®グランプリ」に出場してPRしたり、東日本大震災で大きな被害にあった宮城県山元町を訪れて復興を応援したりと市域の枠を飛び超えて活動しています。

誕生から10年、今ではすっかり所沢のマスコットとして親しまれています。



「みんなの愛情をたっぷり受けて、ぼくも所沢と一緒に成長したよ！これからもよろしくね！」

本誌掲載写真の取扱い

- ・個人・団体所蔵のものは所有者の氏名等を記載しています。
- ・出典記載のないものは、その他関係団体、企業、所沢市教育委員会等より提供を受けています。

※無断転載を禁止します。

所沢市観光大使からメッセージが寄せられました



さいたまブロンコス

- プロフィール
1996（平成8）年に所沢ブロンコスとして設立。所沢市・さいたま市をダブルホームタウンとするB3リーグ所属のプロバスケットボールチーム。
- 2009（平成21）年に観光大使就任。

70周年おめでとうございます！
所沢市の節目の年に、新生・さいたまブロンコスとして新たなスタートを切ることができたご縁に感謝申し上げます。所沢発祥のプロチームとして今後はより一層地域密着を進め、所沢の子どもたちの心身の健全な育成に貢献し、共に成長して次の70年の歴史の一部に誠心誠意貢献して参る所存です。ご声援よろしく願いいたします。



かすがとしあき オードリー春日俊彰さん

- プロフィール
春日 俊彰
1979（昭和54）年2月9日生
お笑いタレント
- 経歴
所沢市で生まれ育つ。埼玉西武ライオンズの大ファン。タレントの他ボディービルダー、フィンスイミングの選手でもある。
- 2013（平成25）年に観光大使就任。

所沢市制施行70周年おめでとうス！！
狭山茶、焼きだんごと並ぶ所沢名物「春日」でさえ、今年で市制施行41周年。70周年とは大したもんだ！
春日もあなたの数多くの作品の一つです。所沢のこれからの期待し楽しみにしております。
ではまた施行100周年でお会いしましょう。
とこよいとこどこだよ所沢。
ほんによいとこ所沢。



じえいず がーでん JAY'S GARDEN

- プロフィール
2008（平成20）年結成。所沢市発のJ-POPボーカルグループ。ところらのテーマソング「toko toko ところん！」を歌っている。
- 2015（平成27）年に観光大使就任。

70周年おめでとうございます！
JAY'S GARDENは2008年にこの所沢で結成し、市民の皆様のご声援を受け、これまで活動することができました。
そして今回、所沢市のテーマソング「つなぐ」を制作させていただきました。市民の皆様にご覧いただければ幸いです。
所沢市の益々のご発展と市民の皆様の幸せを祈念いたします。



ほくとふ じだいき 北勝富士大輝さん

- プロフィール
北勝富士 大輝
1992（平成4）年7月15日生
大相撲力士
- 経歴
所沢市で生まれ育つ。幼少期に出場した「所沢市わんぱく相撲大会」で相撲と出会う。所沢出身で初の幕内力士に。
- 2016（平成28）年に観光大使就任。

このたびは、所沢市制施行70周年おめでとうございます。市民の皆様には、いつも多くのご声援をいただき、とても励まされています。本当にありがとうございます。
私も市民の皆様にも少しでも恩返しできるように今後も相撲に精進していきたいと思っております。
所沢市の今後の益々のご発展と市民の皆様のご健康を心から願っています。



所沢航空発祥の地

この冊子の表紙絵は“航空発祥の地”をイメージして、安彦良和さんが描いたものです。所沢飛行場での初飛行を成功させたアンリ・ファルマン機と同機のパイロットである徳川好敏氏がモチーフとなっています。

所沢市が“日本の航空発祥の地”とされるのは、1911（明治44）年、に「日本初の飛行場が開設されたこと」によります。ライト兄弟による人類初の動力飛行からわずか7年半後のことです。



▲ 徳川好敏氏

1909（明治42）年、日本の航空研究を進めるため「臨時軍用気球研究会」が設立され、初めに手がけたのが「欧州での飛行機調達と操縦法の習得」、そして「飛行場の建設」でした。首都近郊の候補地から地形・気象条件・交通至便などにより、最もふさわしい場所として選ばれたのが所沢です。

その後も初めての航空研究施設、飛行機設計製作所、操縦や整備の学校などが作られ、ここ所沢から“日本の航空”が始まったのです。



▲ 所沢の空を飛行するアンリ・ファルマン機



▲ 開場まもない頃の所沢飛行場とアンリ・ファルマン機

写真提供（複製禁止）
一般財団法人 日本航空協会、
三上博史氏



▲ 現在も航空公園駅前にはYS-11機が展示されています



▲ 安彦良和氏と愛犬まめ子

やすひこよしかず 安彦良和氏

漫画家、アニメーター、アニメ監督。
所沢市に住んで46年。アニメーターとして『ムーミン』、『宇宙戦艦ヤマト』、『勇者ライディーン』、『超電磁ロボ コン・バトラーV』などに携わり、社会現象を巻き起こした『機動戦士ガンダム』ではキャラクターデザイン・作画監督を務めた。その後アニメ監督として『クラッシュジョウ』『巨神ゴーク』『ヴィナス戦記』を手掛けた。
1980年代後半からは漫画家として『ナムジ』（日本漫画家協会賞優秀賞）、『虹色のトロツキー』、『王道の狗』（文化庁メディア芸術祭漫画部門優秀賞）、『韃靼タイフーン』など多くの作品を生み出し、『機動戦士ガンダム THE ORIGIN』は累計発行部数1,000万部を超える。



© 創通・サンライズ 発行：KADOKAWA

安彦良和氏 特別寄稿

「所沢に住んで…」

ちょうど50年前、僕は東京に出てきた。梅雨の湿気のまだ残る中へ、だ。湿気も不快だったが、その後に来た猛暑にもまいった。たまたま、なけなしの金で扇風機を買い、それにしがみついで一夏をしのいだ。

東京、と言ったが、住んだのはまだ北多摩郡だった清瀬町だ。それから職場だった虫プロダクションに近い練馬区に出、こどもが出来たので家賃の安い所沢に越した。たった三年で「都落ち」したことになる。

「落ちた」身で言うのもなんだが、東京は馴染めない町だった。とにかく大きすぎる。そして、つかみどころがない。

北海道の山村育ちだから、町の暮らしにはあこがれていた。その「町の代表」が東京だから、本来、多少つらいことがあっても東京にはしがみついているべきだったのだろうが、どうも愛着が持てなかった。

東京には「町」というまとまりがない。「浅草」とか「下北沢」とか「阿佐ヶ谷」とか、そういう小さいまとまりに依存して住むのが東京暮らしなのだということには後で気付くのだが、どこまでも家並みが続き、山も空もなく、どこへ行き、なにをするにも電車に乗らなければならない東京は、僕のような生粋の田舎者にはちょっと不向きだったのだ。

だから、所沢の印象は「ここは町だ」というものだった。駅から伸びる商店街があり、その中心に市役所があり、アパートからは狭山丘陵から続く山並みが見え、町はずれはあきらかに「田舎」の様相を呈した畑地と雑木林に接している。しかも、都合のいいことに東京はすぐお隣だ。「お住まいはどこ？」なんて出掛け先で訊かれても、少々の良心の呵責に耐えれば「東京」と答えてもそうウソにはならない。

所沢の魅力は平地林にあり

そんなことから所沢に家を建て、二軒目の家も建てて「当分の間は住もう」と心決めた。その辺りから数えても、もう三十年以上になる。

所沢に愛着を感じだしたのは二軒目の家に住むようになってから、だろうか。駅までが程よい距離だったこともあるが、少し年を経た住宅街で、そこに平地林が点在していたことが良かった。

「まるで軽井沢だ」というのは軽井沢になぞ行ったこともない者の冗談だったが、小さな雑木林達の風情はじっさい味わいがあった。北海道育ちだから、樹木というものは紅葉して冬には葉を落としてほしいという要望がある。だからまだ上京する前、たまたま見た神宮外苑の常緑の木々に僕は強い違和感を持ったものだった。その点で、武蔵野特有の雑木林

はいい。最初の家に近かった三富の広い林も良かったし、現在住んでいる榎町界隈の小さな平地林も良かった。

「かった」と過去形になるのは、残念ながらその後、バブル期の宅地開発や車庫法^{*}改正等の影響でみるみるその林が失われていってしまったからで、我が家に近いそれも絶滅寸前の状態にある。

幸い、武蔵野の林は近年見直されて来つつある。人里にある平地林の価値が、である。百年前、国木田独歩が感動して描いたのは三鷹辺りか、或いは巢鴨のはずれ辺りの景だったのだろうが、現在、それに最も良く見合うのはたぶん所沢だ。大事にしたいものである。東京に近い、だが、あきらかに東京とは違う良き情景のひとつとして。

*「自動車の保管場所の確保等に関する法律」の通称。1991(平成3)年の改正により、駐車場需要が大幅に増加した。

所沢ってどんなところ？

所沢の場所は？

武蔵野台地のほぼ中央、埼玉県の南西部に位置しています。北東部は三芳町、北部は川越市・狭山市、北西部は入間市、南部は柳瀬川をはさんで東京都と接しています。

まちの特色は？

東京都心部から30km圏内にありながら、狭山丘陵や武蔵野の雑木林に代表される豊かなみどりや狭山湖、また丘陵付近から源を発する柳瀬川、東川などの川や湧水に恵まれた豊かな自然を有しています。

それらと共存する形で、歴史ある文化を感じられる多数の史跡が残るとともに、発達した広域交通網による利便性も確保されており、自然環境と都市機能、さらに文化が調和したまちです。

いつから人が住んでいるの？

市内の遺跡の発掘調査によると、約3万年前から石器を用いた人の痕跡が残っており、旧石器時代には所沢に人が住んでいたと考えられています。



いつ市になったの？

1950（昭和25）年に埼玉県で8番目に市制が施行されました。市となった当時は42,000人余りのまちでした。

所沢の大きさは？

面積 … 72.11km²
周囲 … 57.0km
東西 … 15.1km
南北 … 8.9km

歴史的な特性は？

古代には東国と武蔵国府を結ぶ東山道武蔵路、中世には東国の武士らが鎌倉との往復のために使用した鎌倉街道が幹線道路として市内を縦断していました。近世になると市内を横断して江戸へ向かう道や、新河岸川の舟運を利用するため河岸場に向かう道が発達して、交通の要衝として栄えるようになりました。こうして所沢は多くの人や物資が行きかう経済的な中心地となり繁栄してきました。

所沢市の“ひと”

総人口 **344,277人**
(男性170,509人、女性173,768人)

(令和2年7月末日現在)

世帯数 **163,129世帯**

1世帯当たりの人数 **2.1人**

(令和2年7月末日現在)

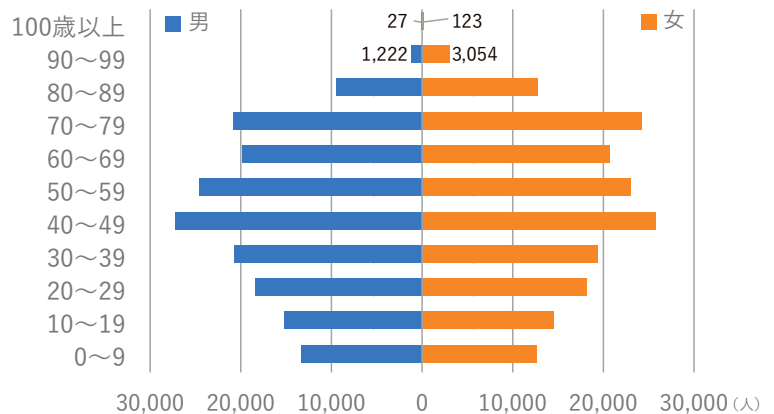
平均年齢 **46.9歳**

(令和2年6月末日現在)

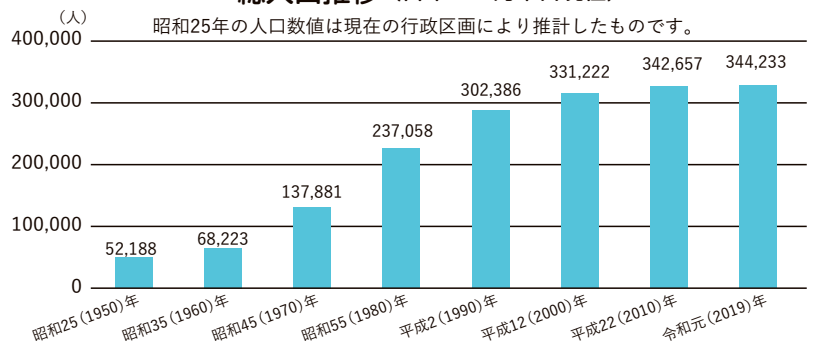


市ができてからの70年間、人口は増加を続けているよ。
人口ピラミッドは市ができた当時は若年層が多く富士山型だったけど、時代を追うごとに形が変わって、今ではつぼ型になってるんだ。

年齢別人口ピラミッド（令和2年6月末）



総人口推移（各年12月末日現在）



参考：令和元年度版所沢市統計書、年齢別人口調査、年次別世帯数人口調査

市になる前の所沢ってどんなところ？

大昔のところざわ (古代)

市域では、約3万年前から石器を用いた人の痕跡が確認されています。なかでも、旧石器時代の遺跡である「砂川遺跡」は、出土遺物から石器の製作工程を復元したことで日本の旧石器時代研究に重要な発見をもたらしました。このほか、縄文時代中期の集落跡が発見された市指定史跡「膳棚遺跡」などからも、この地域に太古から人々が生活していたことがわかります。奈良・平安時代には、都と地方を結ぶ幹線道路が整備される中で、「東山道武蔵路」が市内を通っていました。



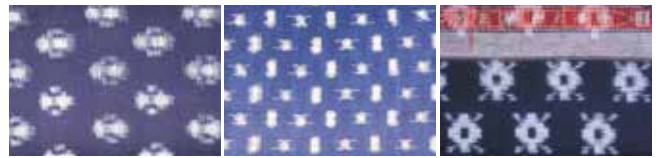
中世のところざわ (鎌倉・室町時代)

鎌倉時代には、東国の武士らが鎌倉との往復のために使用した鎌倉街道が幹線道路として市内を縦断していました。倒幕の兵を挙げた新田義貞もこの鎌倉街道^{に った よしさだ}を通して南下して、小手指ヶ原で幕府軍と激しい合戦を繰り広げ、鎌倉幕府を滅亡に追い込みました。室町時代から戦国時代にかけて市域を支配していた大石氏が築いたとされる「滝の城」は、やがて関東に勢力を伸ばした北条氏の持ち城となり、河越（川越）や岩付（岩槻）などへの伝達拠点として重要な役割を担っていましたが、1590年、豊臣秀吉の軍勢による攻撃を受けて落城し、廃城となりました。



近世のところざわ (江戸時代)

江戸時代になると、市域の多くは旗本（江戸幕府を支えた中下級家臣）によって治められるようになり、市内を横断して江戸へ向かう道や、新河岸川の舟運を利用するため河岸場に向かう道が発達して、所沢は交通の要衝、物流の拠点として栄えました。また、三富新田や武蔵野新田の開発が進められ、これまで武蔵野の原野であった地域に新しい村ができていきました。江戸時代後半から農家の副業として盛んに織られた^{かすり}縞などの織物は、所沢の三八の市で主に取引されたことから「所沢織物」と呼ばれ、幕末から明治にかけて縞の生産量が伸びると「所沢縞（飛白）」のブランドで全国に広まりました。



▲ 所沢織物（柄は左から、ツヅミ、繭に飛行機、カメノコ）

近代のところざわ (明治・大正から市制施行前まで)

1881（明治14）年に、所沢村は所沢町と改称しました。それに前後して郵便局や警察署ができるなど、近代化が進みました。また、1888（明治21）年に公布された市制町村制を受けて、市域では江戸時代以来の旧村の合併が進み、現在の地区のもととなる松井、小手指、富岡、柳瀬、三ヶ島、吾妻、山口の各村に再編されました。

1895（明治28）年に、川越鉄道（現在の西武新宿線）が開通し、所沢駅が開設されました。1915（大正4）年には、武蔵野鉄道（現在の西武池袋線）が開通して所沢駅に接続したほか、市域に2つの駅が新設されました。鉄道の開通は、その後の町の発展に大きな役割を果たしました。

さらに、1911（明治44）年には我が国最初の飛行場が開設されたことから、所沢市は「航空発祥の地」と呼ばれています。



▲ 所沢市域の旧村
（1875・明治8年頃）



▲ 所沢市街（1916・大正5年頃）
喜多川方暢氏所蔵



▲ 所沢飛行場（昭和13～20年頃）
喜多川方暢氏所蔵

写真で振り返る 所沢市のあゆみ

1950~1960年代

所沢市の誕生

所沢市が市となる前、1943（昭和18）年に旧所沢町と小手指村、山口村、吾妻村、松井村、富岡村が合併して新たな所沢町となっていました。終戦後間もなく協議会が設立され、市制施行の話は進むかに見えましたが、市街地と農村地帯の地域的格差がまだ大きかったため一時立ち消えになりました。しかし、行田市や秩父市が相次いで市制を施行すると、復興の最中にあった所沢でも、進駐軍工場の労働者の増加や織物業・製茶業の復興など様々な発展要因があったことから、市制施行に向けた機運が再燃し、1950（昭和25）年11月3日、県内で8番目に市制を施行することになったのです。

その後、1953（昭和28）年の町村合併促進法の施行を契機として、1955（昭和30）年4月に三ヶ島村と柳瀬村が所沢市と合併し、現在の市域になりました。

1950（昭和25年）

○11月3日所沢市制を施行

1955（昭和30年）

○三ヶ島村・柳瀬村と合併して、現在の市域となる

1958（昭和33年）

○新所沢団地の第一回分譲開始

1960（昭和35年）

○市制施行10周年

1961（昭和36年）

○所沢市議会が基地返還要求の決議をするとともに、市議会内に基地対策特別委員会を設置する

1964（昭和39年）

○市立図書館開館

○東京オリンピック開催に伴い、市内クレ射撃場（柳瀬）でクレ射撃競技が行われる

1966（昭和41年）

○アメリカ・イリノイ州ディケイター市と姉妹都市締結

1967（昭和42年）

○基地返還を求め、市・市議会・市民等による「基地全面返還運動市民大行進」が行われる

○市の人口が10万人となり、埼玉県下27市のうち第6位の中堅都市となる

○埼玉国体が開かれ、所沢でクレ射撃競技が行われる

1968（昭和43年）

○宮本町に旧市庁舎が完成し、12月より業務開始

ここから先の右ページは、所沢に住む「野老さん一家」のアルバムをたどりながら、20年ごとに所沢市のあゆみをご紹介します。

所沢の変遷を一緒に見ていきましょう！



おじいさん・おばあさん お母さん・お父さん お兄さん・お姉さん わたしたち



所沢市街と所沢駅（昭和30年代初め頃）



日吉町商店街（昭和30年代）
所沢商工会議所所蔵



銀座通りの七夕祭り
（1954・昭和29年）
所沢商工会議所所蔵



旧市庁舎完成（1968・昭和43年）

旧所沢町が飛行場の町として発展するのに伴い、周辺の村と合併して市域が広がっていっただね。今も行政区分や地名には、昔の村の名前が残っているよ。



わたしたちが見る おじいちゃん・ おばあちゃんのアルバム



所沢市は今から70年前、1950（昭和25）年に生まれたんだね。おじいちゃんの話では、その当時は戦後の混乱が収まって、やっと世の中が安定し始めたころだったそうだよ。今ではイメージしにくいけど、その頃の所沢は駅から少し離れると田んぼや畑が広がるのどかな農村地帯だったんだって。市になったことは喜ばしいことで、市制が施行された日には、市内各地域から山車が集まってお祝いしたそう。とても賑やかな行事だったのが写真からも伝わってくるね。

おじいちゃんたちが住んでいる新所沢地区が造られたのは、この時代の少し後のことなんだって。大きな団地ができて、どんどん住民も多くなって、学校も増えていったんだ。この頃は、僕たちが住んでる並木地区の辺りは、今よりも大きく米軍基地が広がっていて、基地の返還を求めて市民運動もとても盛んに行われていたんだ。そのおかげもあって、今の基地の一部返還にも繋がっているんだね。

そして、この時代には1964（昭和39）年の東京オリンピックがあって、市内でもクレー射撃の競技が行われたそうだよ。おじいちゃんとおばあちゃんもすごくわくわくしたのを覚えてるんだって。

1964年東京オリンピック（昭和39年）

南永井に東洋一の規模のクレー射撃場が整備され、競技会場となりました。会期中には海外から多くの人を訪れ、市内はオリンピックムードに。射撃場は1967（昭和42）年の埼玉国体の会場にもなりました。



▶ 所沢会場のタワー



▲ クレー射撃の会場

近郊住宅都市への発展

所沢がベッドタウンとして発展する契機となったのが、新所沢団地（緑町）の造成です。日本住宅公団は東京近郊で住宅を確保するため、北所沢駅（現在の新所沢駅）の周辺で大規模な宅地開発を開始しました。団地や分譲地に1万人の入居を見込んだため、道路・小学校・公園・下水道・都市ガスが整備され、県内では都市基盤や生活環境の整備が先行したニュータウンの先駆けとなりました。



▲ 市制施行記念祭礼（1950・昭和25年） 肥田野憲一氏所蔵



▶ 西武新宿線 新所沢駅
（1964・昭和39年）



◀ 新所沢団地（1964・昭和39年）

基地の返還を求めて

所沢飛行場跡地は、第二次大戦終結後に米軍に接収され、その広大な敷地は在日米軍の施設として使用されました。その後、返還を目指して市民1万人署名運動や基地全面返還運動市民大行進などの運動が展開されました。



▲ 市民約4,000人による基地全面返還運動市民大行進

鉄道の利便性に魅かれて、多くの市民が転入してきたんだ。



写真で振り返る 所沢市のあゆみ

1970~1980年代

この年代には基地の一部が3度に亘り返還され、その跡地は並木地区となり市庁舎や駅、公園など様々な施設が整備されました。また、関越自動車道や武蔵野線が開通し、交通網も整備されるように。1976(昭和51)年には市の人口も20万人を超え、中核的都市としての色が濃くなりました。

1970 (昭和45年)

- 市制施行20周年を記念して文化会館が開館
- 所沢市総合振興計画基本構想が議決される
- 市街化区域と市街化調整区域を決定

1971 (昭和46年)

- 基地第一次返還

1973 (昭和48年)

- 国鉄武蔵野線が開通。柳瀬地区に東所沢駅ができる

1975 (昭和50年)

- 防衛医科大学校が所沢に移転

1976 (昭和51年)

- 市民体育館完成／市民医療センター オープン
- 市の人口が20万人を超える

1978 (昭和53年)

- 基地第二次返還
- 県営所沢航空記念公園、一部開園

1979 (昭和54年)

- 市消防庁舎（現：所沢中央消防署）完成
- 西武ライオンズ球場完成
- 国立身体障害者リハビリテーションセンター（現：国立障害者リハビリテーションセンター）オープン

1980 (昭和55年)

- 市制施行30周年を記念して、第1回市民フェスティバルを開催

1982 (昭和57年)

- 市の人口25万人を超える
- 基地第三次返還
- 陸運事務所所沢支所開設、所沢ナンバー交付開始

1983 (昭和58年)

- 狭山ヶ丘駅東口区画整理条例可決

1985 (昭和60年)

- 所沢市新庁舎建設着工

1986 (昭和61年)

- 所沢駅西口再開発ビル（愛称ワルツ）オープン
- 新庁舎竣工 昭和62年1月に業務開始

1987 (昭和62年)

- 所沢市民憲章を制定
- 斎場竣工
- 航空公園駅開業

1988 (昭和63年)

- 国土庁の地価公示で宮本町の住宅地が全国一の上昇率に



▲ 第一次返還式（1971・昭和46年）

1971(昭和46)年6月30日、基地内の建物で返還式が行われました。返還式は日米両国の国歌演奏により厳粛に開式され、日米両国の代表者によって署名が行われました。



▲ 畑に囲まれていた市民プール（1973・昭和48年）



▲ オープン直前の所沢航空記念公園（1978・昭和53年）



▲ 第1回市民フェスティバル（1980・昭和55年）
市制施行30周年を記念して開催。以後、所沢を代表するイベントに。

わたしたちが見る お父さん・お母さん のアルバム



お父さんやお母さんがまだ小さかった頃、今の並木地区がアメリカから返還されたんだ。1971（昭和46）年に基地の6割ほどが返還されて、そこに今の市役所や警察署、所沢航空記念公園ができたんだって。

そして、この20年の間には現在市内にある駅がいくつかできたことで交通の便も良くなって、人口も20万、30万人とどんどん増えていったんだ。市のいろいろな施設もこの時代にできたそうだよ。

ほかに、西武ライオンズ球場ができてライオンズが所沢で活躍するようになるなど、所沢がすごく賑やかになっていく時代だったんだね。

所沢駅西口再開発ビル（ワルツ）オープン

所沢駅西口地区では、都市化の進展に対応した整備を進めるために1976（昭和51）年に都市計画を策定し、再開発事業が進められてきましたが、その中核となる商業ビルが所沢駅に隣接する形で建設され、1986（昭和61）年4月にオープンを迎えました。

愛称の“ワルツ”は一般公募の多くの案の中から、軽快なリズムが所沢のイメージにふさわしいなどの理由により決められました。



▲ 所沢駅西口

西武ライオンズ球場完成

1979（昭和54）年に、掘り下げ方式で3万5千人以上を収容できる大スタジアムが完成。

その後ライオンズは1982（昭和57）年に、所沢移転後、初の日本一に輝きました。



▲ 西武ライオンズ球場（1985・昭和60年）



▲ 新市庁舎竣工（1986・昭和61年）



▲ 建設中の防衛医科大学校病院（1972・昭和47年）



▲ 国鉄武蔵野線東所沢駅開業（1973・昭和48年）



▲ 西武新宿線航空公園駅開業（1987・昭和62年）

基地返還のタイミングで、跡地に新市庁舎・学校・病院・公園などを整備し、今の所沢市の中心部を作ったんだ。
今も残る基地は、返還後はどのように利用されるんだろう？



写真で振り返る 所沢市のあゆみ

1990~2000 年代

元号が昭和から平成となり 1990（平成2）年には人口も30万人を超えました。所沢市民文化センター ミューズや女性センター「ふらっと（現：男女共同参画推進センター ふらっと）」ができたのもこの頃でした。

1990（平成2年）

- 市制施行40周年目に人口30万都市となる
- 所沢市平和都市宣言を制定

1991（平成3年）

- 平成3年度当初予算総額が1000億円を超える

1992（平成4年）

- 中国江蘇省常州市と姉妹都市締結

1993（平成5年）

- 市民武道館／所沢航空発祥記念館（県営）オープン
- 所沢市民文化センター ミューズ オープン

1994（平成6年）

- 埋蔵文化財調査センター オープン
- いきものふれあいの里センター（県営）オープン

1995（平成7年）

- 女性センター「ふらっと（現：男女共同参画センターふらっと）」オープン
- 所沢・飯能・狭山・入間の4市で大規模災害時の相互応援、市立図書館の相互利用協定を締結

1996（平成8年）

- 国道463号所沢入間バイパスの供用開始
- 中富南コミュニティセンター／新水道庁舎完成
- 市長等が渡米し、基地の全面返還を米国政府に要望
- 所沢・東村山・清瀬・東久留米・新座の5市で大規模災害時相互応援協定を締結

1997（平成9年）

- 全国で初めて、ダイオキシン類規制条例を制定
- 水道通水60周年を記念して「ところざわWATER」発売

1998（平成10年）

- 韓国京畿道安養市と姉妹都市締結
- 市内循環バス「ところバス」運行開始
- 保健センターオープン

1999（平成11年）

- 生涯学習センター オープン
- 「ダイオキシン規制条例」を施行

2000（平成12年）

- 市がISO14001の認証を取得
- 市制施行50周年（シンボルマーク誕生）

2002（平成14年）

- 特例市へ移行

2003（平成15年）

- 東部クリーンセンター オープン

2004（平成16年）

- 新たな市民体育館がオープン
- 「彩の国まごころ国体」成年男女9人制バレーボール競技を開催

2007（平成19年）

- 市の人口が34万人を超える

2008（平成20年）

- 「彩夏到来08埼玉総体（インターハイ）男子バレーボール、バドミントン競技を開催

2009（平成21年）

- 生涯学習推進センター オープン



所沢シティマラソン

市制施行40周年を記念して第1回所沢シティマラソン大会が開催されました。現在は毎年開催される恒例行事となり、そのコースも狭山湖や西武ドームの周辺など、市内名所の景色も楽しめる大会となっています。令和元年度には第30回大会を迎えました。



▲ 第6回所沢シティマラソン

姉妹都市締結

常州市（中国）・安養市（韓国）と姉妹都市締結をしました。現在も、隔年での市民訪問団の派遣や、両市からの行政視察団等の受け入れを行い、市民、行政ともに交流が続いています。



▲ 常州市との姉妹都市締結調印式



▲ 安養市との姉妹都市締結調印式

ところざわの水を製造

水道通水60周年と80周年を記念して、市内の地下300mからくみ上げた水を充填した「ところざわの水」を製造しました。

市制施行70周年となる令和2年には、全国地方公営企業初となる紙パックの「ところざわの水」を製造しました。



水道通水60周年記念
スチール缶の
「ところざわWATER」



水道通水80周年記念
ペットボトルの
「ところざわの水」



市制施行70周年記念
紙パックの
「ところざわの水」

わたしたちが見る お兄さん・お姉さん のアルバム



お兄さんやお姉さんが育ってきた年代の所沢では、様々な施設がオープンしたんだね。それによってわたしたち市民の生活がさらに豊かになっていったんだ。

お姉さんの話だと、中でも特に印象深かったのが社会科見学で行った東部クリーンセンターの完成なんだった。ごみを安全に処理しながら、環境負荷を減らして資源を再利用しているから、所沢が環境によりやさしいまちになる始まりでもあったんだよね。

また、所沢のまちがこれまでよりも更に活気づき始めたのもこの頃だったみたい。所沢市民文化センター ミューズが建てられて、いろんなアーティストがイベントをするようになって、所沢の文化活動の中心施設として今も役割を果たしているよね。

あと、お兄さんが忘れられないのが、西武ライオンズ球場が西武ドームとなって生まれ変わったことだそう。壁がない自然共存型のドームは珍しくて、早速紅白戦の初試合で、松坂大輔投手の登板を見に行ったら懐かしそうに話してくれたよ。

所沢市民体育館 オープン

広大なメインアリーナの天井には埼玉県産の杉無垢材がふんだんに使われエコと美しさを両立。



▲同館メインアリーナ

「ところバス」運行開始

2020（令和2）年現在は全4路線6コースが運行中。



西武ライオンズ球場から西武ドームへ

1997、1998（平成9、10）のシーズンオフにドーム化工事が行われ、1999（平成11）シーズンから半ドーム型の球場に。自然共存型のドームで、場内でも心地よい風を感じられます。

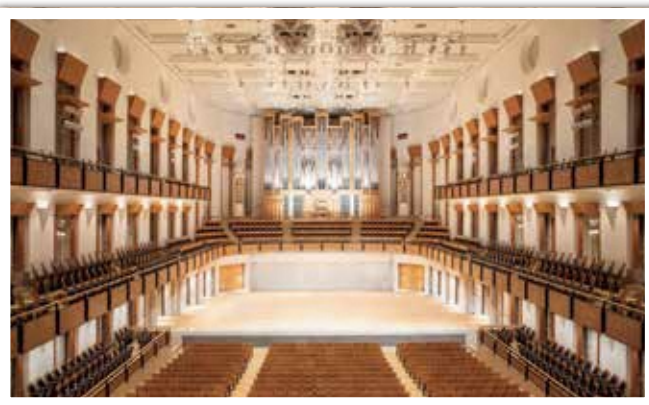
東部クリーンセンター完成

周辺に広がる武蔵野の自然と調和した施設。焼却施設にダイオキシン類などを大幅に取り除く設備を備え、安全に処理が可能に。ごみ焼却時に発生するエネルギーで発電を行い、環境保全にも配慮。



所沢市民文化センター ミューズ オープン

日本最大級のパイプオルガンを備えた アークホール（大ホール）では、最高の音質と音響が楽しめます。



所沢航空発祥記念館 オープン

所沢から発展していった航空の歴史や飛行機の実機の展示など航空に関わる情報や知識を楽しく幅広く学ぶことができます。



▲所沢航空発祥記念館

この時代は人口が安定し、福祉・環境・文化など、市民一人ひとりの暮らしをより良くしていこうという取り組みに重点が置かれていたんだ。



写真で振り返る 所沢市のあゆみ 2010～現在

この10年は社会変化のスピードが増し、さらに生活が便利になる一方で、東日本大震災のような大きな災害が起き、人々はこれまでの社会や生活を振り返る時代となりました。

そのような中、市では自治の基本理念や基本原則を明らかにし、市民等や市の役割と市政運営の基本的な事項を定めた「自治基本条例」を制定したり、「こどもと福祉の未来館」を建設したりと、住民自治と地域福祉をより推進する取り組みを展開しています。

2010（平成22年）

○市制施行60周年を記念して、イメージマスコット「トコロん」が誕生

2011（平成23年）

○11地区に「まちづくりセンター」を設置

○「所沢市自治基本条例」を制定

○「所沢市市民活動支援センター」を設置

○航空発祥100周年記念式典開催

2012（平成24年）

○日米合同委員会にて東西連絡道路用地の返還合意

2013（平成25年）

○西武線と東急東横線・横浜高速みなとみらい線相互直通運転開始

○埼玉西部消防組合が発足

2014（平成26年）

○「マチごとエコタウン所沢構想」策定

○メガソーラー所沢で発電開始

○「所沢市地域がつながる元気な自治会等応援条例」を制定

2015（平成27年）

○「所沢市市民参加を進めるための条例」を制定

○防音校舎の除湿工事の計画的な実施に関する住民投票実施

2016（平成28年）

○「COOL JAPAN FOREST構想」策定、推進協定締結

2017（平成29年）

○こどもと福祉の未来館 オープン

○フットソーラー所沢で発電開始

○埼玉県・所沢市が東京2020大会でのイタリア共和国のホストタウンに登録される

○ところざわサクラタウン工事着手

2018（平成30年）

○株式会社ところざわ未来電力設立、10月より電力供給開始

○スロバキア共和国ブラチスラバ市と環境分野における国際都市間協力を開始

○イタリアオリンピック委員会と東京2020オリンピック競技大会事前キャンプ実施について、正式契約を締結

2019（平成31年／令和元年）

○日本経済新聞社実施「SDGs（持続可能な開発目標）先進度調査」環境部門全国1位

2020（令和2年）

○市制施行70周年を迎える

○基地を東西に横断する東西連絡道路供用開始

○所沢市民文化センター ミューズがリニューアルオープン

○所沢駅の発車メロディが「となりのトトロ」楽曲に（予定）

○所沢駅東口に市制施行70周年を記念して「となりのトトロ」モニュメントを設置（予定）

こどもと福祉の未来館がオープン

「思いやりの心で支え合う幸せに暮らせるまち」を目指し、地域福祉の中心的な役割を担う拠点施設として誕生しました。館内には「地域福祉センター」、「こども支援センター」、「所沢市社会福祉協議会」があります。3者が連携・協力しながら地域福祉の推進を図っています。



▲ こどもと福祉の未来館開館 2017（平成29）年1月



▶ 未来館2階こども支援センターの様子

全国市区サステナブル度

・SDGs先進度調査

所沢市が環境部門で

全国第1位に



「全国市区サステナブル度・SDGs先進度調査」（日経グローバル誌／2019（平成31）年1月7日発行）で、環境部門全国第1位に輝きました。

※SDGsとは、2015年に国連サミットで採択された、「Sustainable Development Goals=持続可能な開発目標」のこと。2030年までに達成を目指す世界共通の目標。

東西連絡道路が開通

米軍所沢通信基地を横断する全長580mに及ぶ市民待望の道路が、2020（令和2）年3月28日に開通しました。開通により、救急車の搬送時間が最大で約3分間短縮されるなど、迂回せずに行き来できることで利便性が向上しました。



▲ 東西連絡道路



▲ 開通式の様子

わたしたちの アルバム



わたしたちの時代は、地震や洪水などの自然災害が多い印象があるな。中でも、2011（平成23）年3月11日に起こった東日本大震災はわたしたちの生活に大きな影響を与えたね。

停電や断水などが長時間続いて、エネルギー・資源に過度に依存してきたわたしたちの生活を見つめ直すきっかけになったよね。

こうした時代の中で、所沢市では未来に豊かな自然を残し、持続可能なまちにするための道しるべとして、「まちごとエコタウン所沢構想」を2014（平成26）年につくったんだ。「人と人」、「人と自然」との絆で、未来と子どもを育む「所沢」を基本理念として、「エネルギー」、「みどり」、「資源循環」の3つが柱になっているんだって。

そして、今年は市ができてから70周年を迎えることを記念して、あの「となりのトトロ」のモニュメントが所沢駅の近くにできるそうだよ。とっても楽しみだね！

1 エネルギーに関する取り組み

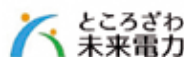
■ まちごとエコタウン推進事業

環境にやさしいまち、「エコタウン所沢」を実現するため、メガソーラーとフロートソーラーから生み出した電力を売り、得た資金を基金に積み立て各種事業に充てています。



▲メガソーラー所沢（とことこソーラー北野）令和元年度売電実績：50,534,269円

■ 再生可能エネルギー普及推進事業



2018（平成30）年度に株式会社とことこ未来電力を設立し、公共施設や事業者環境にやさしい電力を供給しています。2020（令和2）年度10月からは、一般家庭向けにも供給受付を開始しています。

2 みどりに関わる取り組み



■ 里山保全地域等指定整備事業

ふるさと所沢のみどりを継承するため、里山保全地域やまちなかみどり保全地区などの指定、消失の恐れのある緑地の取得などにより、みどりの保全を進めています。



◀みどりの保全活動（落葉清掃の様子）
みどりのパートナー活動推進事業として、みどりの保全や創出活動を行う個人や団体を支援しています。



地域に残された資源を有効活用することで、次の世代により良いふるさとを残していこうと取り組んでいるんだ。



所沢市は「まちごとプラスチックごみ削減」に取り組むことを宣言しているよ！
所沢でも、プラスチックごみ削減のためにできることはたくさんあるよ。

3 資源循環に関わる取り組み

■ 食品ロスゼロのまち促進事業

「食品ロスゼロのまち協力店」の登録、「食べきりタイム」の導入など、「食のもったいない」をなくす取り組みを2014（平成26）年度にスタート。



▲『ひろいうみのおはなし』プラスチックごみによる海洋環境汚染問題を学べる紙芝居を作成。

そして、これからの所沢は・・・

1950（昭和25）年の市制施行から現在まで、所沢市は成長を続けてきました。
 そして、さらに今年（令和3）は所沢の魅力^{クール ジャパン フォレスト}を国内外へ発信するCOOL JAPAN FOREST構想をはじめとした一大まちづくりプロジェクトが進行中です。これからも所沢市は成長し続けます。

クール ジャパン フォレスト COOL JAPAN FOREST構想の 拠点施設が始動

COOL JAPAN FOREST構想とは市と株式会社KADOKAWAが共同で、文化と自然が共生した、誰もが「住んでみたい」「訪れてみたい」地域づくりを進めるプロジェクトです。



1 ところざわサクラタウン

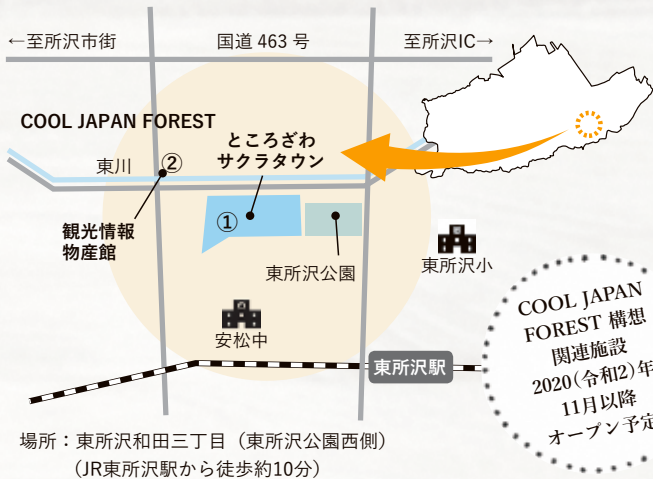


2 マルシェ



①ところざわサクラタウン：KADOKAWA・角川文化振興財団による拠点施設。角川武蔵野ミュージアム、イベントホール、ショップ&レストランなどを設置。

②マルシェ：サクラタウン隣には所沢市の魅力を発信する所沢市観光情報・物産館がオープン[2021（令和3）年予定]



場所：東所沢和田三丁目（東所沢公園西側）
 （JR東所沢駅から徒歩約10分）

COOL JAPAN FOREST 構想
 関連施設
 2020（令和2）年
 11月以降
 オープン予定

まちには音楽がひろがる♪

市は、あらゆる世代の市民や市内を訪れる方に、音楽でうるおいと安らぎ、そして活力を与える「音楽のあるまちづくり」（音まち）を推進しています。



◀ 所沢音まちMAP

生演奏を聴いたり、自分で演奏するなど、音楽が楽しめるお店や施設を紹介



▲ 音まちコンサート

市役所1階のホールでは音楽イベントを定期開催。素敵な音色が響き渡ります。

所沢駅西口も進化します



めざすところ

- ・市の表玄関としての魅力・活力創出
- ・親しみのあるにぎわいの創出
- ・歩いて楽しいまち（回遊ルートづくり）
- ・道路整備による都市軸の形成

まちづくり
 全体は
 令和7年度
 完成予定



世界ともつながります

世界の各都市と友好関係を築くことで、国内にとどまらない文化やスポーツの交流、欧州の技術を取り入れた持続可能なまちづくりに取り組んでいます。

姉妹都市との文化交流



アメリカ合衆国
イリノイ州
ディケイター市

1966(昭和41)年5月6日締結

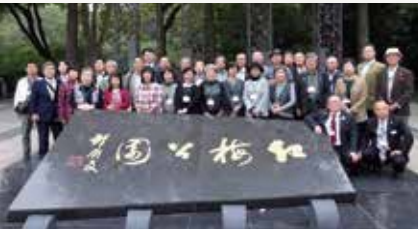
2016(平成28)年に姉妹都市締結50周年を迎え、ディケイター市長を団長とする訪問団が来訪し、航空公園で記念植樹を行いました。また、両市の高校生の派遣と受入れを隔年で行っています。



中華人民共和国
江蘇省
常州市

1992(平成4)年4月20日締結

2017(平成29)年に姉妹都市締結25周年を迎えました。毎年、行政視察団の受入れによる行政情報の交換を行っているほか、市民訪問団を派遣するなど、市民との交流も行っています。



大韓民国
京畿道
安養市

1998(平成10)年4月17日締結

2018(平成30)年に姉妹都市締結20周年を迎えました。毎年3月に開催される、所沢市国際交流フォーラムに合わせて、安養市韓日親善協会友好訪問団が来訪し、韓国文化の紹介をしています。



イタリア共和国とのつながり

国際的なスポーツの祭典であるオリンピック・パラリンピック。その事前キャンプに関して、イタリア共和国の受入れを契機として、所沢市は2017(平成29)年に同国のホストタウン^{※1}に登録されました。近年は同国の競歩や競泳の選手団が当市でキャンプ^{※2}を行うなど、交流を深めています。

※1 ホストタウン

東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けてスポーツ立国・グローバル化の推進、地域の活性化、観光振興等に資する観点から、参加国・地域との人的・経済的・文化的な相互交流を図る地方公共団体を登録する制度です。

※2 キャンプ

2018(平成30)年に競歩の代表チーム、2019(令和元)年には競歩と競泳の代表チームのトレーニングキャンプをそれぞれ受入れました。



スロバキア共和国

首都ブラチスラバ市とのつながり

欧州連合(EU)が実施する国際都市間協力(IUC)プログラムにおいて、2018(平成30)年にペアリング都市となりました。「気候変動適応策」をテーマにお互いの都市を訪問し、共同で実行計画を作成しました。



フランス共和国とのつながり

1919(大正8)年、フォール大佐率いる「フランス航空教育団」が来日し、所沢でも航空技術を伝えました。2019(平成31)年には、航空教育団来日100周年を記念したイベントを催し、記念式典、フォール大佐像の新プレート除幕式、桜の植樹、航空自衛隊による祝賀飛行などが行われました。





高橋玄洋氏

作家

1929（昭和4）年島根県生まれ。少年時代を広島県尾道市で過ごす。早稲田大学卒業後は放送作家として数多くの人気ドラマの脚本を担当する。また、小説や随筆を手掛けるなど作家としても多数の著作を持つ。長編小説として、飛行場を擁した時代の所沢を書いた『人工樹林』がある。過去には所沢市民憲章の起草委員長を務め、市民主体での憲章の制定に大きく貢献した。

識者が

住み始めた頃の所沢

私が所沢に移り住んできたのは、1959（昭和34）年、30歳の頃でした。

当時の所沢はアメリカ西部の街のようで、風が吹くと土が舞い上がる、埃っぽい所だった記憶があります。

始めに住んだ場所は、新所沢駅前の第一団地でした。その頃は、新所沢駅の傍らには団地以外の建物はなく、街の様子は今とはだいぶ違いましたね。

当時はテレビ局に勤め始めたばかりで、仕事の都合的にも東京に通える所沢を候補に選んだつもりでしたが、所沢の最初の印象は、「東京から遠いな」というものでした（笑）。

住まいは鉄筋コンクリート造りの庭付きテラスハウスで家賃は6千円だったと思います。その前に住んでいた杉並の部屋は、同じ家賃で半分程の広さしかなかったのが驚きました。その生活環境の良さから、当時は公営団地は人気が高く、入居にあたっては収入制限や抽選をクリアしなければならず、私も他に神奈川の部屋など何回か応募した覚えがあります。

市民憲章

所沢市民憲章の草案を書いたのは、昭和の終わり頃、私が所沢に住み始めて30年ほど経った年でした。1986（昭和61）年6月、市民有志による「市民憲章をすすめる市民の会」が作られました。当時の青年会議所のメンバーらが中心となり、所沢の

シンボルとなるようなものを目指して作成に取り組み、そこで出たたくさんの方の思いを書き手である私が預かり、大きく3つの柱にまとめました。市民を中心に発案された案が、市に提言され採用されたことはとてもユニークな流れだと思います。全国的にもこうした市民目線で作られた市民憲章というのは、とても珍しいものです。

飛行場があった時代の所沢

著書『人工樹林』では、私が所沢に来るよりもさらに昔、所沢に飛行場があった時代の物語を書きました。私たちの世代にとっては、所沢は軍の飛行場があった「軍都」というイメージが強くあります。当時のことを調べるにつれ、飛行場や軍隊が人々の生活にとっても身近な存在だったという事実と、翻弄されながらも共存していたであろう人々や街の様子を知ることができました。

戦後、軍都というイメージは薄れ、街の性格は徐々に変わっていきましたが、一定の年齢以上だと、所沢というとまだ基地がある街というイメージを持つ方も多いでしょうね。

今の時代の先を見据えて

よく「10年ひと昔」なんて言いますが、この世は“流れ”であり、人間の生き様や社会の流れなどはそのくらいの単位で見ないと、その時代が良かったか悪かったかだなんて分かりません。

現代はインターネットなどでも情報が溢れ、世の中が少しギスギスしているように感じることはありません。しかし皆が、物事を長い目で見て、損得を考えずに周囲に手を差し伸べられるような、他者から尊敬される人間を目指して生きていけば、厳しい世の中でもお互いの思いやりで良い方向に回っていくようになるのではないのでしょうか。

所沢市民憲章

所沢市は武蔵野台地の自然に恵まれ、鎌倉街道の拠点として発達し、日本人が初めて大空にはばたいた記念すべき街である。この歴史と環境の上に立ち、未来に向かって、うるおいの文化都市をめざす。

人は市の誇りである。こころのふれあいを求め、友情の輪をひろげよう。

恵まれた自然はいのちの泉である。みどりを守り、やすらぎの街を創ろう。

こどもは市の宝である。胸深く刻まれるふるさとを伝えよう。

所沢市は市民のためである。一人ひとりが自らまちづくりを進めよう。

昭和六十二年三月制定

市民憲章とは、市民一人一人が人の和とふれあいの心を大切に、所沢を明るく住みよいまちにしようと、1987（昭和62）年3月に制定されたものです。物質的な豊かさから精神的な豊かさへの人々の意識の変化を背景に、市民有志の手で草案が作られました。

この憲章の理念として最も基本となるのは、①人の大切さ②自然の大切さ③子どもの大切さを謳い、市民の生活規範として守っていくという姿勢です。

藤村 龍至 氏

東京藝術大学美術学部建築科准教授
／建築家、RFA*主宰

1976（昭和51）年東京生まれ。当市椿峰ニュータウンにて育つ。建築設計やその教育、批評に加え、公共施設の老朽化と財政問題を背景とした住民参加型のシティマネジメントや、日本列島の将来像の提言など、広く社会に開かれたプロジェクトも展開している。



見た所沢。

所沢はどんな街

私が所沢に越して来た1980年頃は、所沢は「明るい街」という印象がありました。西武ライオンズ球場や航空公園、新所沢パルコなど周りの町にはない新しいものが、どんどん作られる…所沢は若々しい街なんだな、と感じていました。

社会科の先生の影響もあり、広報ところざわを熟読するような小学生だったのですが、80年代中頃は西武鉄道の地下化や「夢ではない百万都市」というワクワクする言葉が紙面を飾り、実際に人口も年間に一人ずつくらい増えていたように記憶しています。本当に無限に発展していくイメージでした。

90年代に入り川越市内の高校に通うようになりましたが、その頃から所沢と川越の市街地は異なる方向に歩きました。所沢は銀座通り沿いにタワーマンションを林立させ、古い町並みを変身させました。一方で川越は、歴史的な資源に着目してまちづくりのルールを作り、蔵造りの町並みを徐々に復活させ、観光地化していきました。

両市の在り方は対極的ですが、所沢は景観を壊したものの定住人口を増やしたとも言えるし、川越は交流人口は増やしたけれども観光公害が目立つようになりました。

現在の郊外都市

1970年代から80年代にかけての急激な人口増加の影響を受け、現在の郊外都市、特にニュータウンには様々な問題が集積されています。かつて若々しかった所沢でも高齢化の

波が押し寄せています。

埼玉県中部にある鳩山町では、人口の半分が鳩山ニュータウンに住んでいます。高齡化率が50%を超えるなど状況は先行しています。町では今、ニュータウンの再活性化に力を入れており、2017年には地方創生の交付金を活用して商業施設の跡地に「コミュニティマルシェ」という公共施設を作りました。ニュータウンの将来に関わると思ったので、私の事務所で手を上げ、管理運営を受託しています。

私は現在は東京在住ですが、今も椿峰のニュータウンの実家に母が暮らしており、たまに帰省します。椿峰ニュータウンも高齡化が進んでいますが豊かな環境があり、若い世代も少しずつ流入しています。2018年には若い子育て世代のママさんたちが中心になって、ニュータウンの公園を使って「つばきの森のマーケット」が開催されました。新しい住民の方々と交流していると交流空間や仕事をする場所が足りないと感じることもあります。

かつてはベッドタウンと呼ばれ、ニュータウンは夜に寝に帰る場所でしたが、もう少し新しい生活像が欲しいところです。徳島県の神山町では、大容量の光ファイバーを引いてネット環境を整備し、「川に足をつけながらパソコンを開く」イメージが流通しました。そういった「絵」が1枚できると、郊外ニュータウンのイメージが変わりそうです。

先述した鳩山ニュータウンでも、鍍金作家の方が結婚され出産を期に海外から戻ってくる際にアトリエを

求め移住してくるなど、子育てしながら創作活動をしている芸術家たちが何組もいます。そういう方々のライフスタイルが発信され出すと、見え方も変わってくるでしょう。

所沢のこれから

東京近郊の郊外都市では、一度都内に出た世代が少しずつ戻り、新しいカルチャーが出て来ているように思います。所沢でも空き店舗をリノベーションして個性なお店を出すなど、新しい動きが見られます。また西武線沿線は「トキワ荘」以来、漫画家やアニメーターの方も多く住んでおり、隠れたポテンシャルだと感じています。

所沢は狭山丘陵があり、身近に深い緑があるというのは一つ大きな特徴なので、緑をインフラとして捉え、新しい郊外都市生活の「絵」を示したいですね。ただし重要なのは、現役世代を巻き込み、新しいライフスタイルを示すことです。空家や公共空間を少しリノベーションして、緑に囲まれた、アトリエ付住宅やシェアオフィスにしてみるとか。先行事例が出れば、追随する人も出てくるかもしれません。そうしたヒントになるようなプロジェクトを、まずは椿峰でやっていきたいと思っています。建築を通じて、郊外都市のイメージを変えていきたいですね。

※ RFA…藤村氏が代表を務める設計事務所（ryuji fujimura architects research for architecture）の略称。

魅力あるまち① / みどりを訪ねて

所沢市は、都市のにぎわいから一步足を延ばすと、狭山丘陵の美しいみどりと湧き水が作り出す水辺、武蔵野の面影を残す林や農地など、長年にわたり人々に親しまれてきた身近なみどりが数多く残されています。身近に残る、そうした貴重なみどりや水の豊かさ・美しさは、多くの市民との協働により守られており、今も所沢市に心地よい潤いをもたらしています。

まちとみどりが共存している所沢だからこそ、ふらっと散歩に出掛ければ、その豊かさに触れることができる。あなたの身近にある安らぎのスポットを気軽に訪ねてみませんか。

～平地林～ 身近なみどり

所沢の北部に広がる武蔵野台地は、かつては水が得にくく、人が住むには向かない土地でした。

江戸時代に行われた新田開発に伴い、この地域にも畑が作られました。元々は樹木も生えない乾燥した土地だったため、人々は木を植え、畑や家を風から守りました。

やがて木々は土地に潤いをもたらすようになり、また人々はその落ち葉を堆肥として利用し、燃料となる薪を得るなど、農業を営む生活にはなくてはならない存在となっていました。

それらの木々は、今日では「平地林」と呼ばれ、多くの人の保全活動により、今でも身近なみどりとして生きています。



若狭山の神市民の森・若狭地蔵市民の森

若狭の住宅地にある近接した2つの樹林地です。この林が生まれるきっかけとなった新田開発は、大変な苦勞を伴うものであったため、開拓の成功や健康を願って神仏がまつられたといわれています。



くぬぎ山（駒ヶ原特別緑地保全地区）

武蔵野台地最大級の平地林として、市の北端に広がっています。過去には産業廃棄物の焼却炉が建てられ、多くの自然が傷ついてしまいましたが、地域の人々などの尽力の結果、今では希少な動植物が数多く息づくまでに回復しました。

旧鎌倉街道沿里山保全地域

かつて鎌倉と北関東を結んでいた街道筋の樹林です。

街道の名残とともに保全された樹林からは、古き時代の面影が感じられます。樹林を抜けた先には農地が開け、地元の散策スポットとして親しまれています。



～狭山丘陵～多様で豊かなみどり

埼玉県南西部及び東京都北西部にまたがる武蔵野台地のほぼ中央に位置し、東西約11km、南北約4kmの丘陵地です。上空から見ると独立した島状になっているのは、大昔の多摩川が削り取った大地の残りだからです。樹林地や湿地、茶畑や果樹園など多様な環境を有し、多くの生きものが生息・生育する、地域を代表する豊かなみどりの地帯です。

宮崎駿監督の映画「となりのトトロ」の舞台のモデルの一つになったといわれており、丘陵には「トトロの森[※]」が点在しています。



※トトロの森

自然や文化財を保全する「(公財)トトロのふるさと基金」が企業や市民の寄付を募って取得し、ボランティアにより維持管理され、守られている森です。(2020年7月現在、1～54号地まであります)



狭山湖(山口貯水池)

市内を流れる柳瀬川の上流をせき止めて作られた人造湖で、東京都の水がめとしての機能を担っています。

周辺には木々が広がり、鏡のような湖面とともに桜や新緑、紅葉といった四季折々の美しい景色や、オオタカや水鳥の観察などを併せて楽しむことができます。



オオタカ



荒幡富士特別緑地保全地区

カタクリなどの希少な林床植物が残る、豊かな植物相が見られる緑地です。地区内には、明治時代に地元住民が作り上げた日本有数の大きさを誇る人工富士「荒幡の富士」もあり、地域住民がその保存と緑地の保全に取り組んでいます。



上山口堀口天満天神社周辺里山保全地域

貴重な里山の原風景が残されている地域です。明るく広がりのある雑木林と、豊かな湧き水や湿地が、多様な生きものが生息する環境を作り出しています。



菩提樹池里山保全地域

菩提樹池は、元々は農業用の用水池で、地元の人々の活動により修復されました。復田された田んぼとともに美しい里山の風景が戻り、初夏にはホタルが舞うなど様々な生きものが集まる森のオアシスとなっています。谷あいの地形には水が集まり、湿地が形成され、周囲の雑木林とともに谷戸の風景が楽しめます。

魅力あるまち② / 文化の史跡を訪ねて



旧石器を用いた人の痕跡が残り、3万年以上もの歴史がある所沢。
市内各所には多くの文化財があります。皆さんがお住まいの地域にも、
先人たちが残してくれた貴重な財産があるかもしれません。
歴史や文化を肌を感じながら、ふるさと所沢の史跡を訪れてみませんか。

西エリア



こんじょういん
金乗院 (山口観音) (上山口2203)

千手観音や六歌仙図大絵馬など、数多くの文化財を有する真言宗の寺院で、狭山三十三観音霊場第一番札所でもあります。



木造千手観音立像



おのけじゅうたく
小野家住宅 (林2-426-1)

開拓農家の住まいとして、18世紀初め頃に建てられました。木造平屋建ての入母屋造り、茅葺屋根の建物で、当時の典型的な農家の間取りとなっており、国の重要文化財に指定されています。



いろいろに火を入れる日も

他にもこんな文化の史跡があります



きたのてんじんじゃ
北野天神社 (小手指元町3-28-44)

物のべてんじんじゃ くにいちぎじんじゃ てんまんてんじんじゃ
物部天神社、国漕地祇神社、天満天神社の総称で、北野という地名の由来になった神社です。社伝によれば日本武尊が東征の折に創祀したのに始まるとされています。



多宝塔 (上山口2213)



中氷川神社 (三ヶ島5-1691)

中央エリア



ところさわしんめいしゃ
所澤神明社（宮本町1-2）

旧所沢町の鎮守で、熊手市や人形供養の神社として有名です。境内の樹齢200年の大ケヤキは、市の巨樹・巨木に認定されています。



熊野神社（西新井町17-33）

旧下新井村の鎮守社で、12月には藁で作った蛇を鳥居に飾る「若注連神事」が行われます。



中央エリア & 東エリア

三富新田

市域北部の中富・下富、三芳町の上富を合わせた「三富」は、江戸時代（1600年代後半）に川越藩によって新田開発が進められた地域です。現在でもその名残として、短冊状の区割りを目にすることができます。

東エリア



おうりんかく
黄林閣（坂之下437）

「電力の鬼」といわれた実業家松永安左エ門が、別荘として移築しました。江戸時代天保期の民家の特色が残り、国の重要文化財に指定されています。



松永安左エ門



たもんいん
多間院（中富1501）

三富新田開拓の際に、村民の祈願所として創建されました。境内に建つ多間院毘沙門堂の本尊は、武田信玄の守り本尊といわれる純金の毘沙門天で、毎年5月1日に「寅まつり」が開催されます。



身代わり寅

魅力あるまち③ ところざわ自慢 まつり



①市民文化フェア 4月

春爛漫の所沢航空記念公園で、文化交流を目的として行われるイベント。市民茶会、さくらコンサートなど様々な催しで賑わいます。



②ところざわまつり 10月

鎮守所澤神明社の秋の祭礼を起源に行われた祭り。見どころは12基の山車の共演。山車が囃子で競い合う曳っかわせは必見！



③市民フェスティバル 10月

秋の所沢航空記念公園で行われる市民手づくりの祭典。物産・飲食ブースなどの出店が軒を連ねるほか、ミニSL、太鼓、ダンスなど、参加型のイベント盛りだくさん。

民俗芸能



かつては、地域の神社や寺院の境内を中心として、祭礼や行事の際に、祭囃子や獅子舞のほか、鉦はり（双盤念仏）や説経節、万作踊りなど様々な芸能が行われ、奉納されていました。その中で今日まで伝承され、市指定の無形民俗文化財にもなっている民俗芸能が「重松流祭ばやし」と「岩崎籠獅子舞」です。

重松流祭ばやし

重松流祭ばやしは、所沢生まれの古谷重松が編み出した囃子の流派で、「じゅうま」は重松の愛称です。幕末から明治以降、所沢を中心として多摩地域にかけて広まり、行商のため近郷近在を歩いた重松が先々で囃子を伝授したと伝えられています。現在は「重松流祭囃子保存会」や各地域の囃子連などによって保存・伝承されています。



岩崎籠獅子舞

山口の岩崎地区に伝承されている獅子舞です。毎年10月第2土曜日に瑞岩寺の境内で奉納が行われています。江戸時代初期に岩崎村を知行した宇佐美長もとが1614（慶長19）年大坂冬の陣に出陣して戦功を立て、その帰途に京都へ立ち寄り3頭の獅子頭を買い求め、帰郷して村の若者に伝授したのが始まりと伝えられます。現在は、「岩崎獅子舞保存会」によって保存・伝承されています。



「Made in ところざわ」 伝えたい・守りたい伝統の技



埼玉県指定の伝統的手工艺品

雛人形

埼玉県は雛人形の生産地として全国的に知られており、所沢では江戸時代末期から生産されています。現在も職人の匠の技術により一体一体が丁寧に丹精込めて制作されています。

特産品 & ソウルフード

所沢産の里芋は
高品質と評判



▲直売所ガイドマップ

1 / 所沢市の名産品の狭山茶。他の茶産地より寒い気候で作られる狭山茶は葉が厚いため甘く濃厚。2 / 所沢産の里芋は品質の高さと上品な味が特徴で高値で取引される高級品。味はもっちりねっとり濃厚。3 / 所沢のうどんの食べかたは主につけ麺。ダシがきいた醤油ベースのつけ汁につけて食べる肉汁うどんが主流。4 / 所沢の焼だんご。米粉を熱湯で練って丸め蒸したものを竹串に刺し、醤油を塗って焼いたもの。醤油が香ばしくもっちりした食感。



◀市内にはたくさんのうどん店があり、地域の味として親しまれています。近年では（一社）所沢市まちづくり観光協会が「肉汁うどんマイスター！スタンプラリー」を開催するなど、さらなる盛り上がりを見せています。[2020（令和2）年3月終了]

なぜ所沢で焼だんご？

所沢の土地は火山灰土のため水はけが良く、水田での米の栽培が難しかったので、代わりに陸稻（おかぼ）が栽培されていました。

陸稻とは畑地でも栽培できる稲ですが、水稻にくらべると味は劣り食感もぼそぼそ。そこで、これをおいしく食べるため昔の所沢の人々は知恵を絞り、粉にひいて蒸す、焼だんごを作りました。以降、農作業の合間のおやつとして食べられるようになり、時代が変わった今も所沢のソウルフードとして親しまれています。

所沢ブランド特産品

それは“所沢らしさ”を追求した逸品

所沢ブランド特産品公式ウェブサイトでは、商品や販売店を紹介しているほか、事業者が商品の魅力を語る動画やSNSへのリンク機能も掲載しています。
URL: <https://www.tokorozawa-brand.jp>



所沢ブランド特産品とは？

“所沢”を発信できる魅力的な逸品として市が認定した商品で、所沢の農産物や文化・伝統・風習などを活かした和菓子・洋菓子・地酒・地ビール・工芸品などの個性豊かな商品が認定されています。



DRINK



ぜひ
見てくださーい



魅力あるまち④ スポーツ編

所沢市内では、魅力あるスポーツチームがそれぞれの競技で日々活躍しています。その雄姿を身近に感じられるのは地元所沢ならではの。さらなる活躍を願い地元から大きな声援を届けましょう！



野球

埼玉西武ライオンズ



©SEIBU Lions/TEZUKA PRODUCTIONS



プロ野球黎明期の1950年、福岡の地に西鉄クリッパースというプロ野球チームが生まれました。翌年、西日本パイレーツとの合併を経て西鉄ライオンズが誕生。以降、「ライオンズ」の名は、太平洋クラブ、クラウンライターを経て現在の西武にいたるまで70年もの間、ファンに愛され、受け継がれています。リーグ優勝23回、日本シリーズ優勝13回はいずれもパ・リーグ最多です。

2018・19シーズンと2年連続パ・リーグ優勝を果たしている埼玉西武ライオンズも「ライオンズ」命名から70周年になります。ライオンズはプロ野球だけでなく、地元所沢市では地域活性化のための活動も行っています。

「ライオンズ」
命名から70年

1950年	西鉄クリッパース
1951年～	西鉄ライオンズ
1973年～	太平洋クラブライオンズ
1977年～	クラウンライターライオンズ
1979年～	西武ライオンズ（本拠地所沢）
2008年～	埼玉西武ライオンズ

埼玉西武ライオンズ 辻 発彦 監督からのメッセージ

① 所沢市とライオンズへの思い

私は長い間、所沢市に住んでいます。メットライフドーム周辺に緑や湖があり、自然が豊かであることが特に気に入っています。

1984年に入団した時のことは今でも忘れませんが、なかでも2018年に行った優勝パレードが最も印象に残っています。沿道から多くの方々に「おめでとう」と言ってもらい、大変感激しました。また、球場の施設も入団当時に比べて大きく変わっていますので、ぜひ市民の皆さまも球場にお越しいただきたいですね。

① ライオンズも70周年

「ライオンズ」の歴史は1951年の西鉄ライオンズから始まり、2020年は、チーム名に「ライオンズ」と付けて70周年目です。諸先輩方が築いてこられた「強いライオンズ」を汚さぬよう、新たなライオンズの歴史をここ所沢市で作っていきます。



▲2018（平成30）年の優勝パレード（所沢駅前）

① 所沢市民の皆様へ

いつも我々に大きな声援を送っていただきありがとうございます。私、そして何よりプレーする選手達にとって大きな励みになっています。今後も市民の方々に愛される強いライオンズを作っていきますので、引き続き、ご声援をよろしくお願いします。



▲埼玉西武ライオンズ 辻 発彦 監督

バスケットボール

さいたまブロンコス



1996年設立。

2005年、所沢市、さいたま市を含む埼玉県全域をホームタウンとして「埼玉ブロンコス」が活動を開始しました。2016年に発足したリーグでは、B3リーグに所属しています。2020年7月1日からは、新生「さいたまブロンコス」として、新しい体制の下、チーム名・ロゴ・チームカラーを刷新し、地域密着型クラブとしてのスタートを切りました。



©BRONCOS20

相撲

ふたごやまべや 二子山部屋



2018年に藤島部屋から
分家独立し、所沢市北岩岡に創設。

師匠は14代二子山を襲名した二子山雅高（元大関雅山）。分家独立時は弟子は6人でしたが、現在は10人まで人数を増やし、十両昇進を目指して日々稽古に取り組んでいます。

ゴールボール

ゴールボールとは？

第二次世界大戦で視覚に障害を受けた傷痍軍人のリハビリのために考案されたスポーツです。視覚条件を公平にするため目隠しを着用し、鈴の入ったボールをゴールめがけて転がすように投球し合い得点を競います。



2017年に所沢市民体育館がスポーツ庁から東京パラリンピック競技種目であるゴールボールのナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点施設に指定されました。東京パラリンピック日本代表選手が練習に励んでいます。

日本は、2012年ロンドンパラリンピックで女子が金メダルを獲得、2016年リオデジャネイロパラリンピックでは5位に入賞するなど、世界で活躍しています。

ロンドンパラリンピック金メダル獲得時に監督を務めた江黒直樹氏は、2021年の東京パラリンピックでも男子の監督を務めます。また、本市在住の田口侑治選手は男子日本代表に内定しており、活躍が期待されます。

江黒 直樹 監督

一般社団法人日本ゴールボール協会理事
男子日本代表監督



2017年からゴールボール競技拠点施設として、所沢市民体育館を平日・休日と利用させていただき、感謝しております。今後も多くの方々に競技・魅力などを知っていただきたいと思っています。どうぞよろしくお祈りします。

安達阿記子 選手

ロンドンパラリンピック女子金メダリスト



2015年からゴールボール体験活動を所沢市の小・中学校でさせていただき、たくさんの素敵な出会いに感謝しています。視覚障害有無に関係なく楽しめるスポーツなので、もっと所沢でゴールボールの輪が広がることを期待しています。今後も所沢からゴールボールを盛り上げていけるよう頑張ってまいります！

田口 侑治 選手

東京パラリンピック男子代表内定



所沢市の方々にはたくさんのご協力、ご支援をいただいております。またサポートだけでなく、率先して競技を体験され、楽しさや難しさを多くの方々に共有していただいております。

2020東京大会は一年延期となりましたが、開催されることを信じ、所沢市を代表し戦って参りたいと思います。引き続き応援のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

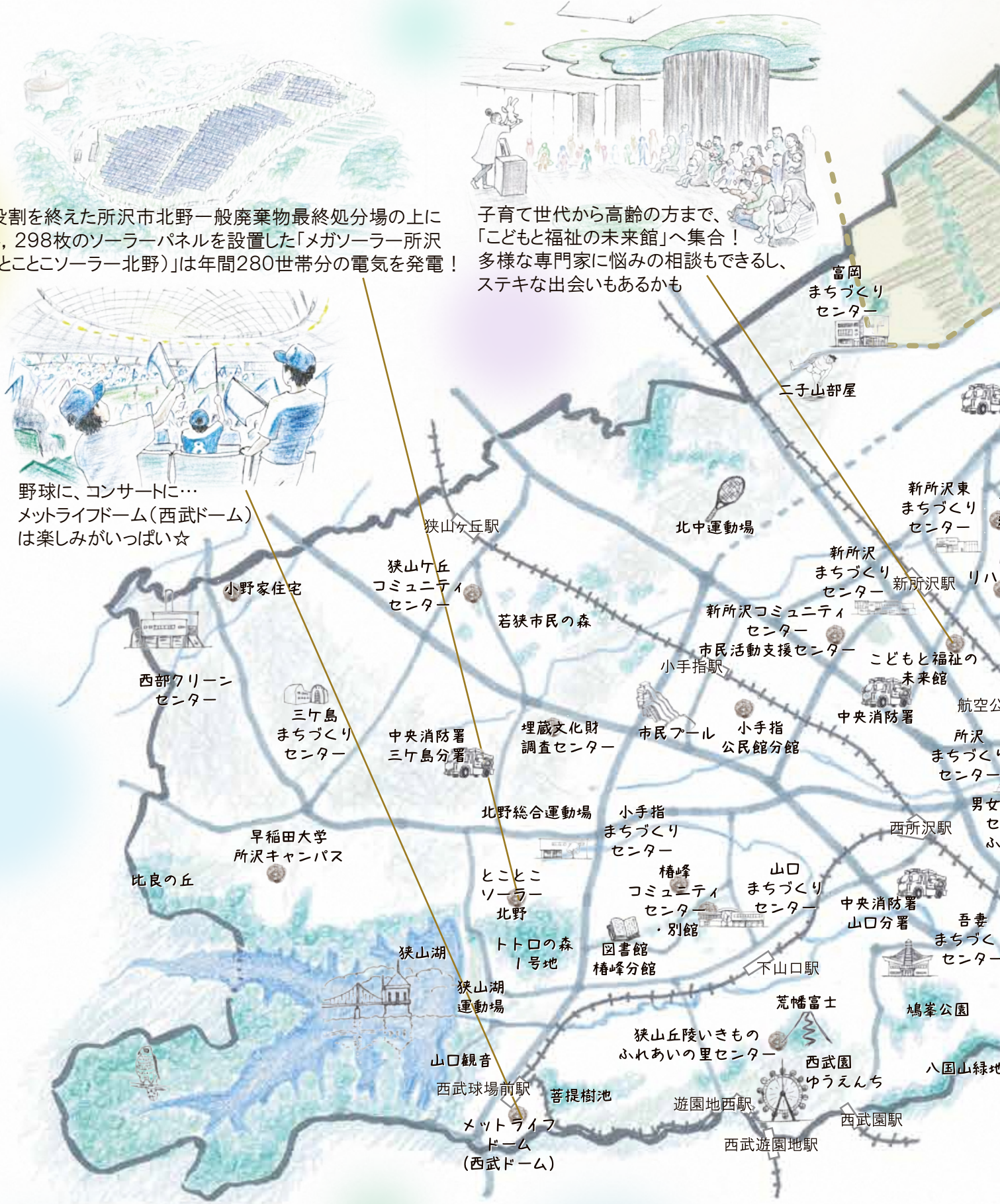
魅力あるまち⑤

彩り豊かな、ところざわ

役割を終えた所沢市北野一般廃棄物最終処分場の上に、4,298枚のソーラーパネルを設置した「メガソーラー所沢（とことこソーラー北野）」は年間280世帯分の電気を発電！

子育て世代から高齢の方まで、「こどもと福祉の未来館」へ集合！多様な専門家に悩みの相談もできるし、ステキな出会いもあるかも

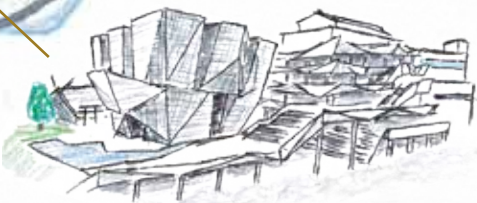
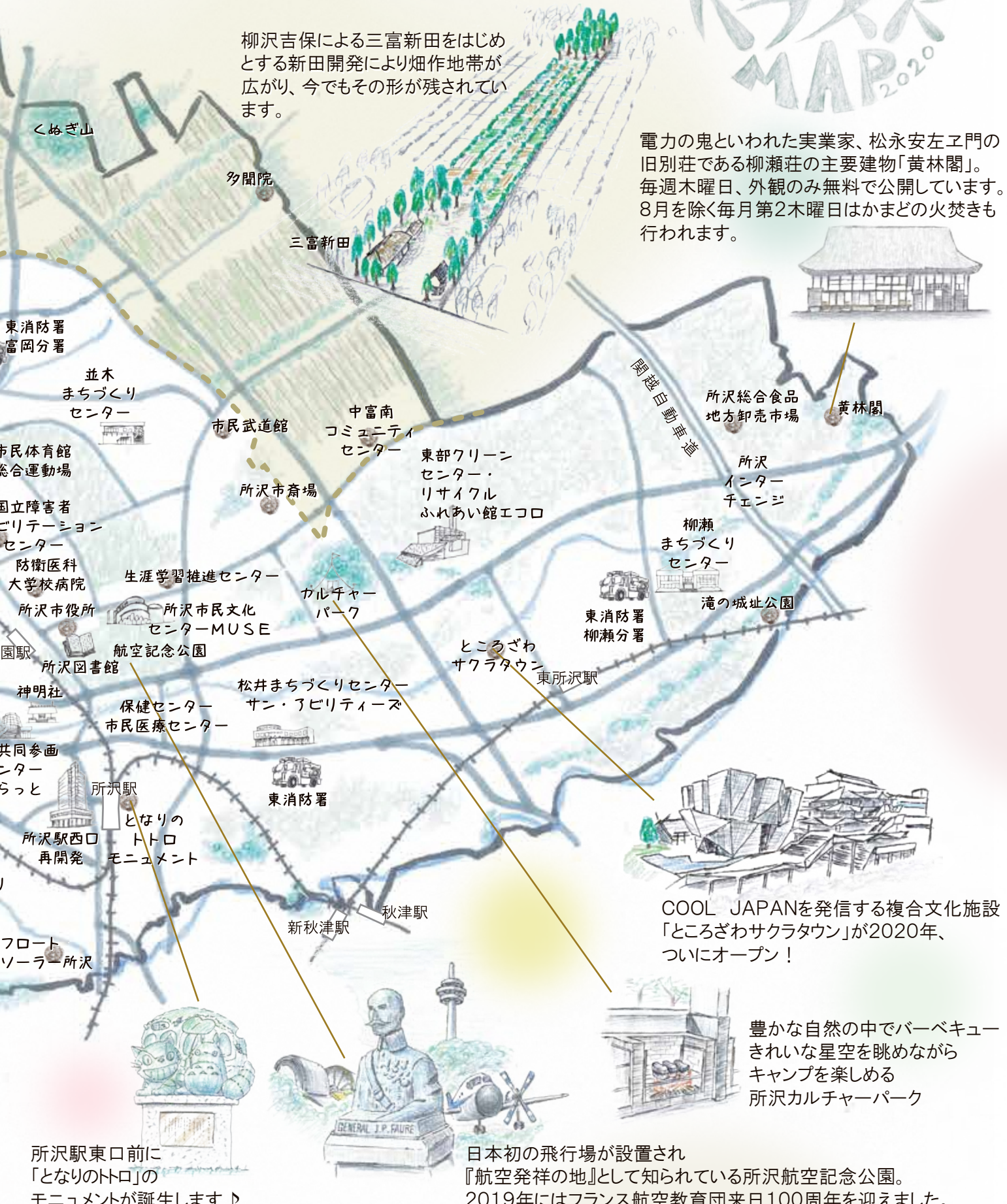
野球に、コンサートに…
メットライブドーム（西武ドーム）
は楽しみがいっぱい☆



ゆるぎない MAP 2020

柳沢吉保による三富新田をはじめとする新田開発により畑作地帯が広がり、今でもその形が残されています。

電力の鬼といわれた実業家、松永安左エ門の旧別荘である柳瀬荘の主要建物「黄林閣」。毎週木曜日、外観のみ無料で公開しています。8月を除く毎月第2木曜日はかまどの火焚きも行われます。



COOL JAPANを発信する複合文化施設「ところざわサクラタウン」が2020年、ついにオープン！



豊かな自然の中でバーベキュー
きれいな星空を眺めながら
キャンプを楽しめる
所沢カルチャーパーク

所沢駅東口前に「となりのトトロ」のモニュメントが誕生します♪

日本初の飛行場が設置され『航空発祥の地』として知られている所沢航空記念公園。2019年にはフランス航空教育団来日100周年を迎えました。

所沢市議会

市議会は、市民の代表として選ばれた33人（定数37人）の議員により、予算や条例などの審議をします。総務経済、健康福祉、市民文教、建設環境、予算を所管する常任委員会と議会運営委員会、広聴広報委員会、必要に応じて設置される特別委員会があります。

2009（平成21）年3月に議会基本条例を制定し、市民の負託に応えるため、議会報告会や政策討論会の開催など様々な議会改革に取り組んでいます。



議会のあゆみ



▲昭和39年当時の議場（1964・昭和39年）



▲所沢市の前身、所沢町の時代の町議会の様子。（1933・昭和8年頃）三上秀夫氏所蔵

市制施行後には、1951（昭和26）年に初めての市議会議員選挙が行われました。当時の立候補者は46人で、このうち30人が市民代表の議員となり市議会がスタートしました。



▲第19期 所沢市議会議員

議会報告会



議員が議会活動の状況を市民の皆さんに直接、報告・説明するとともに、議会活動や市政について、自由に情報・意見交換をする場として2010（平成22）年度から開催しています。

政策討論会



特定のテーマについて各議員が活発に意見交換等を行い、共通認識を醸成するために2011（平成23）年度から開催しています。

所沢市の誕生とともに、市の方向性を定め、未来の発展を願った「所沢市政宣言」を始まりとして、本市には市の基盤となる市民憲章(P.16)や宣言（交通安全都市宣言や所沢市平和都市宣言）などが作られてきました。今を生き、未来へ向かうなかで、先人たちが作り上げた所沢の礎を、今一度振り返ってみましょう。

所沢市政宣言（昭和25年11月3日制定）

市政宣言

昭和二十五年十一月三日、文化の佳き日に所沢市は、達識先輩の意図を傳承し、市民の奮発と四隣交友の恵沢によつて実現した

所沢市の実現は、郷土の歴史的な大展開であつて、全市民の祝福と明日への希望を約束する表徴である

所沢市の誕生に当り、行政施策の大綱を明らかにすることは、蓋し当然の責務であつて、市民の輿論に応える所以であると信ずる

吾が親愛なる市民諸君!!

希くは、純粋無雑、真に建設への大局的批判と愛郷の情熱をもつて、この第一声を了とせられたい

行政施策大綱

○大所沢市の実現は、農商工業の振興対策と併行して、住宅都市、観光都市としての諸施策を推進することによつて成し得べく、即ち市は今後全市民の理解と協力を基調として、この生命線に対する活潑な施策を具体化するであろう。

○自治体の健全性は、其の大半を財政施策にまたねばならない。地方税法の大改革が将来地方自治体の消長に関する理由も蓋し故なきではないが、要は制度の運用に存する。

宜しく時運を達観し、世局の変遷に対処し、市民生活の現実に即し、以て財政施策に万全を期せんとするものである

○市民の日常に対しては、より高き文化水準の向上を必須とする、即ち洗練された智性乃至教養の美と健康にして豊かな徳操を素材として、所沢市独特の文化的個性発揮がのぞましい。

この意味に於ける一切の文化施策こそ重要施策の一と言わねばならない。

本日茲に所沢市実現のこの光輝ある歴史と感激を永く後世に伝え、併せて全市民の心気を新に致さんが為、即ち決意を公にして其の実現を誓うものである

昭和二十五年十一月三日

開庁式において

所 沢 市 長 新井 萬平

所沢市議会議長 越阪部 一



市章（昭和30年11月3日制定）

市制施行5周年を記念して制定されたものです。地名の由来の一つといわれているヤマノイモ科の植物「野老」の葉を図案化したものにカタカナのワが囲んだもので「和」への願いがこめられています。



シンボルマーク（平成12年）

市制施行50周年記念として「シンボルマーク」を募集し、応募作品2,420点から選ばれました。「狭山丘陵」や「日本の航空発祥の地」をモチーフに、緑豊かな未来都市への飛翔をイメージしています。

市の木・花・鳥（昭和48年12月1日制定）



いちよう



茶の花（白）



ひばり

Happy 70th Anniversary

